

「里親」による医学生支援プログラムの概略と経緯。

「地域「里親」による学生支援プログラム」は、将来、滋賀県で医療活動を行うことを希望する医学生と看護学生を、入学時から地域で活躍する同窓生や地域に暮らす住民が「里親」「プチ里親」となって支援することで、地域医療に対する関心を持続・発展させ、「自ら望んで地域の医療に携わる医療人」として養成し、深刻化する地方の医師・看護師不足の解決を目指す取り組みです。

プログラム立案の背景

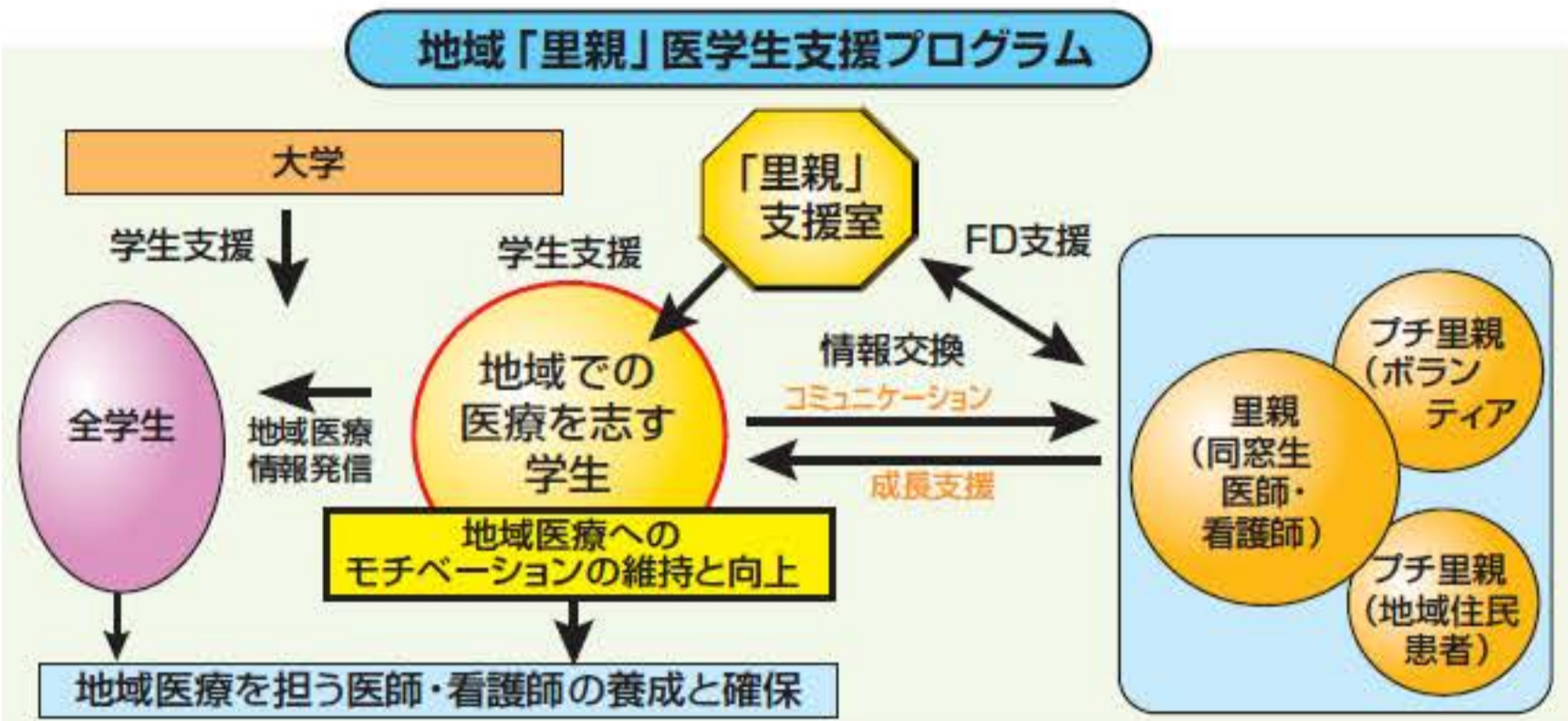
深刻化する医師・看護師不足を解消するために、地域医療の担い手をどう育てるかが課題となっています。

- 大都市部に医師・看護師が集中し、地方では深刻な医師・看護師不足による社会問題が起っています。
- これまでの医学教育では、地元地域を意識した教育・学生支援はほとんど行われてきませんでした。
- 地域医療に関心のある学生がいても、その「初心」を育み支える支援策がありませんでした。
- 卒業後は「是非」滋賀県で働きたい9.4%、「滋賀県で働いてもよい」43.4%・本学医学生392人調査（H19年12月実施）
- 地域に残ることに不安を抱く学生をサポートする対策が求められています。

取り組みの独自性

地域医療を志す医学生・看護学生に対して、大学と地域が連携して、学生たちの初心を育むための支援を行います。

- 関心のある診療科や所属クラブなど、学生の特性とマッチングさせて里親を選びます。
- まずメールのやりとりから始めて、春夏秋冬には里親を訪ねて直接交流を図ります。
- 「医学概論」の早期体験学習「自主研修」「社会医学フィールド実習」「学外（地域）臨床実習」などで、里親、プチ里親の下で長期体験実習が行えるようにします。
- 里親、プチ里親が講師として全学的な教育にも関われる機会を設けます。
- 「学生理解」や「学生指導法」などについて、里親、プチ里親も参加できるFD研修を行います。また、イン



■里親バンク

里親
県内で働く同窓会の医師624名と看護師139名の中から趣旨に賛同される方

プチ里親
病院ボランティア(50名)、模擬患者ボランティア(20名)、献体篤志家組織「しゃくなげ会」の会員と家族(1345名)、および広く県民の中から趣旨に賛同される方を募ります。

ターネットを利用してFD研修を受講できるようにします。(今どきの学生)に関するFD研修会 H20年1月28日開催
● 教職員だけでなく里親やプチ里親を支援員として「里親」学生支援室を設けます。

期待される効果

大学と地域が連携して、学生のニーズ(滋賀について知りたい、不安や悩みを相談したい)と地域のニーズ(地域の現状を知ってほしい、地域に残って医療活動を行ってほしい)を結びつけます。

- 「里親」「プチ里親」との交流を通じて地域への愛着を増し、地域医療への関心を持続向上させ、滋賀県で活躍する卒業生をうみだすことが期待できます。
- 学生の人間関係における経験を豊かにし、優れた医療人となるための態度形成が期待できます。
- 「里親」「プチ里親」と連携交流することによって、学内だけでは発見できない学生支援の課題に気付いたり、教職員の能力向上が期待できます。
- 補助期間終了後も学部教育の一環と位置づけ継続的に取り組むことで、地域の医療を担う医療人の供給体制の確立が期待できます。